

研究レポート No.617 岩手県農業研究センター

県北地域における業務用露地ほうれんそうの栽培法

【1 栽培方法の概要とポイント】

作型	品種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	適応地域	栽植距離	施肥量
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中			
初夏どり	サイクロン	○	▲	□						県北地域	条間40cm 株間4~7cm	(成分量) N-P ₂ O ₅ -K ₂ O= 1.4~1.75-1.5-1.75 (kg/a)
秋どり	パワーアップ7		▲	□		○	▼	□				

○: 播種 ▲: 収穫期間 □: 条間中耕除草 ↑: 除草剤散布

- (1) 播種適期 初夏どり作型では融雪後～5月下旬、秋どり作型では8月中旬が播種適期です。
- (2) 施肥量 窒素成分量で 14 kg～17.5 kg/10a が適正施肥量です。
- (3) 栽植距離 条間 40cm×株間 4～7cm が適します。
(理由：作業効率が最も良いうえに、条間に機械で入れる広さなので除草管理も楽になります。)
- (4) 除草対策1 レナシル水和剤（商品名「レンザー水和剤」）を播種直後に土壌散布します。
- (5) 除草対策2 初夏どり作型では本葉4枚期からその5日後までに条間中耕除草を実施します。
- (6) 除草対策3 レナシル水和剤散布後に降雨などがあった場合、出芽前までであればアシュラム液剤（商品名「アージラン液剤」）を追加散布することも有効です。

【2 導入にあたって】

- (1) 主に契約栽培が前提となりますので、販売先の確保が必要となります。
- (2) 出荷規格は契約相手先によって大きく変わります。葉先枯れや葉の黄化、泥の付着程度についての許容範囲を確認して、露地栽培で無理なく出荷できる契約内容か十分に検討する必要があります。
- (3) 秋どり作型は高温期に播種するため、初夏どりよりも不安定となりやすいため注意が必要です。

【3 導入事例】

出荷サイズ：約 35 cm、ダンボール横詰め、袋詰め無し
 出荷期間：6/14～17、11/2
 出荷量：3,280 kg/10a（初夏どり作型、秋どり作型合計）
 農業経営費：約 413 千円/10a
 労働時間：86.3 h /10a

この事例に基づき試算をすると、時間当たりの農業所得 1,000 円/h を得るためには、契約単価約 152 円/kg以上が必要となります。



写真 業務用ほうれんそう収穫作業の様子(場内)

担当研究室 県北農業研究所 園芸研究室
 〒028-6222 岩手県九戸郡軽米町大字山内 23-9-1 TEL. 0195-47-1073 FAX. 0195-49-3011